The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ラーニング・コモンズにおける授業実践 : 大阪大学総合図書館の事例
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/25950
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ラーニング・コモンズにおける授業実践
～大阪大学総合図書館の事例～

OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

久保山　健 (KUBOYAMA Takeshi)
大阪大学附属図書館 利用支援課（サービス企画主担当）
<October 26, 2012>

第98回 全国図書館大会　島根大会.第2分科会　大学・短大・高専図書館
学習・教育のハブを目指して：教育と連携した大学・短大・高専図書館のサービスをデザインする
会場：　くにびきメッセ

2012.10.24.版

OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

(1) はじめに

■今日の内容

(1) はじめに
(2) ラーニング・コモンズについて
(3) 授業等での利用
　利用ルールの整備、利用実績、図書館の場を選ぶ理由、実務的な対応、図書館以外の施設
(4) 課題
(5) 施設利用を超えた教育支援へ
(6) まとめ

2

(1) はじめに

■経歴

- 2005.6～の約6年間は、情報推進部 情報基盤課
- 2011.4～　現部署
- 学習支援企画、広報等を担当

3

(2) ラーニング・コモンズについて

◆背景（1）　ITツールの一般化

IT機器、Web上の情報

＊学生用のPCが「教育用」だけでなく、「情報の入手・整理・発信」という性格を強めている?

◆背景（2）　学習観の変化

4

◇要素

(1) 物理的資源

：PC, IT機器、場所、従来型図書館

(2) デジタル資源：Web、オンラインツール

(3) 人的資源　：図書館員、IT技術者

(*)リサーチ、IT、ライティングの支援

(4) 協働できる環境

＋ 学習理論の転換

（参考文献）
(*1) 永田治樹. 大学図書館における新しい「場」：インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ. 名古屋大学附属図書館研究年報. No.7. 2008.
(*2) 永田治樹. 図書館とインフォメーション・コモンズ：情報社会における共有資源. 情報管理. Vol.53, no.7. 2010.

◇海外事例

- 2008年2月に訪問
- Queen's University (Ontario, CAN)
  Joseph S. Stauffer Library
- University of Guelph (Ontario, CAN),
  McLaughlin Library

OSAKA UNIVERSITY
The Writing Centre
Stauffer Drop Off Depot
Laptop and Desktop Drop Off Times:
Normal hours
Monday to Friday:
8:30 am to 4:30 pm
Closed Weekends
004 Computing Services Offices
FEB 7 2008

9

The Learning Commons
Writing
Technology
The Learning Commons
IT Help
FEB 6 2008

◇総合図書館ラーニング・コモンズの概要

大阪大学附属図書館の構成

３地区（豊中・吹田・箕面）

〇経緯

・“B棟”の耐震改修計画がきっかけ

・2008年度　工事

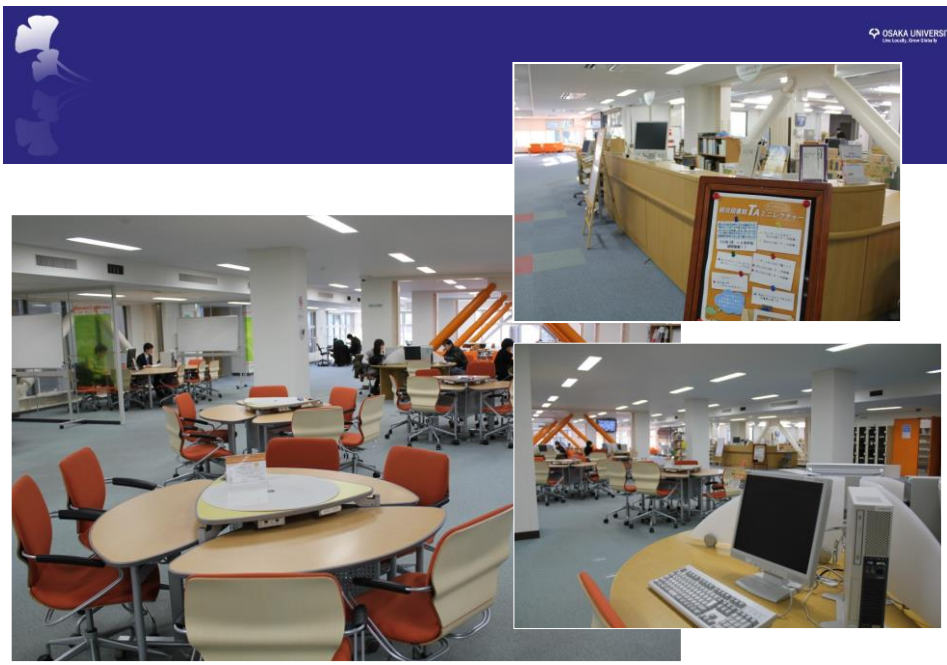
・2009.6.　オープン

〇コンセプト

Reading から Learning

Teaching から Learning

11



13

人的サービス、講習会など

- Teaching Assistant：学習相談、講習など
- 図書館スタッフ：論文の探し方講習など
- 教員と図書館スタッフ：レポート講座、論文の書き方・読み方、話す基本技術

15

11月オープン予定

「グローバル・コモンズ」

- 多言語多文化理解のための共同学習スペース

16

(3) 授業等での利用

(3.1) 利用ルールの整備

「ラーニング・コモンズ授業等使用要項」

- 使用範囲は幅広く

「本学の教職員等により行われる、学術研究及び教育を目的とした研修等」や、

「その他学術研究及び教育を目的とした行事等で、…副館長が適当と認めるもの」

17

(3.2) 利用実績

■ 2010年度：32回

・教員H　15（半期の授業）
・教員H　15（半期の授業）
・教員N　1（授業の内１回）
・教員K　1（授業の最終報告会）

■ 2011年度：17回

・教員H　15（半期の授業）
・教員N　1（授業の内１回）
・インタビューの撮影　1

18

(3.2) 利用実績

■ 2012年度：28回（10月19日申込まで）

・教員H　15（半期の授業）
　・教員S　4（授業の内2回×2クラス）
　・教員S　3（授業の内3回×1集中講義）
　・教員S　1（授業の内1回×1クラス）
・教員O　3（授業の内3回）
・教員N　1（授業の内1回×1クラス）
・ビブリオバトル　1

初回利用の教員、個別利用の増加が見られる

19

(3.2) 利用実績

(3.3) ラーニング・コモンズを選ぶ理由

■アンケート

・2012.10月上旬にメールにて実施

・回答：教員3名、学生1名

・目的：教育学習支援の場所として、どのように見られているかの把握。
現状のブラッシュアップ

21

(3.3) ラーニング・コモンズを選ぶ理由

	N	S	H	計
グループ学習の場として利用	3	3	3	9
PCの利用	3	2	2	7
無線LANの利用	0	2	1	3
本探し	3	3	3	9
図書館の活用法を学ぶ	3	3	3	9

3：とても当てはまる　2：概ね当てはまる　1：少し当てはまる
0：当てはまらない
(*)学生の回答は「人が集まりやすい場所」

22

(3.3) ラーニング・コモンズを選ぶ理由

■自由記述

「15名の学生全員が一度に一緒にPCが利用できれば理想でした。2名に1台…」

「貸し出しPC（Windows）が不足…」

■まとめ

・書籍やデータベース、図書館の使い方を教えやすい

・PCがもっとあるとよい。

23

(3.4) 実務的な対応

(1) 利用問合せや申請の対応

(2) 場所や機器の確保、予約

(3) 図書館案内、調べ方の説明のサポート

24

(3.5) 図書館以外の施設

■「スチューデント・コモンズ」の存在

・2009年11月、大学教育実践センター（現在は全学教育推進機構）に設置

・36～108席の4教室、カフェテリア

・授業の他、研究会やワークショップなど、学生、教職員の交流の場としても使用

◆ラーニング・コモンズも教育支援施設の一つ

(3.5) 図書館以外の施設

(*)各写真は、スチューデント・コモンズの説明資料から引用
http://www.celas.osaka-u.ac.jp/s_c/files/sc-prof.pdf

(4) 課題

(1) 手続きの簡素化

- 使用者側、提供側ともに繁雑にならないように
- グローバル・コモンズ開設に伴い規程の一本化。許可書は廃止したが…

(2) 休館日

- 当館は試験期を除いて、月末に休館。
- 授業実践とのバランスが必要である。

27

(4) 課題

(3) 書籍を探しに行くときの荷物管理

- 館内に書籍を探しに行く際に荷物は？

(4) 広報活動や学務担当部署との調整

- 拡大するのであれば、教務担当部署とも調整、広報も

(5) 日常的な座席利用率の高さ

- グローバル・コモンズ開設で多少の緩和を期待

28

(5) 施設利用を超えた教育支援へ

■問題意識

- 授業利用が増えれば目的達成？（教育との新しい関わりだとしても）
- では、何を事業展開するのか。我々の強みは何か。
- これらをどうつなげていくのか

  施設、書籍・電子的資料、IT機器・ネットワーク

  図書館スタッフ・TA、教員、関連部署

  授業、学生

29

(5) 施設利用を超えた教育支援へ

■ステークホルダー

- 学生

  学習、知識やスキルの習得

  卒業～キャリア形成
- 教員

  教育、知識やスキルの伝達・習得を促す

※学生や教員にとっての「価値」とは何か

30

(5) 施設利用を超えた教育支援へ

■現在提供しているサービスメニュー

- 授業一コマでの「図書館活用法入門」
- 図書館TAによる学習相談講習会（総、理） 2008～
- 論文検索関連ミニ講習　2011～
- レポートの書き方講座（総）　2010～
- 論文の書き方/文献の読み方 プチゼミ（総）　2010～
- プレゼン入門　話す基本技術（総）　2011～

- シラバス指定図書コーナー、コースリザーブ（総）
- キャリア支援図書コーナー　（総、理）

いろいろ種類と
回数を増加

31

(5) 施設利用を超えた教育支援へ

■教育との距離の縮め方

- 商品化・事業化
- 関連部署との人的連携

  情報活用基礎、講習会、新コモンズのグループインタビュー、パンキョー革命

→ 何名かの先生とは「顔の見える関係」ができてきた。

- 次は？

→ 接点を増やして、価値観や方向性の共有

32

(5) 施設利用を超えた教育支援へ

■教育との距離の縮め方

- グローバル・コモンズ も、一つの材料に
- 授業で必要とされる「サービスメニュー」の共同開発？
- 場所、書籍・電子資料、IT機器 の存在

※図書館事情のコンテンツではなく

(例)レポートの書き方講座（一コマ版）

ロジカルスピーキング、特定の授業向けの文献リスト…

×：OPACの検索の仕方（分かるでしょ/説明が必要なシステムなんて）

33

(6) まとめ

■発表概要

- ラーニング・コモンズについて

  概念、海外事例、当館の事例
- 授業等での利用

  利用ルールの整備、利用実績、図書館の場を選ぶ理由、実務的な対応、図書館以外の施設
- 施設利用を超えた教育支援へ

35